

2-2 海外研修 訪問先所感

海外研修 7月30日(金)から8月7日(土)まで

7月30日(金)

JICA 中華人民共和国事務所



【目的】研修日程の説明及び中国における JICA 事業を知る。

「日本で中国を肯定的に評価する情報は目立たず、かえって否定的な情報が一般化する。だから、ありのままの中国を見て欲しい。」という所長の一言に勇気づけられ、今後の道筋をつけることができた。(吉井)

CLAIR 北京事務所



【目的】兵庫県と中国のつながりを知る。

CLAIR 北京事務所の方が「中国と日本の子どもたちを交流させたい。」と思っていることを知り、驚いた。しかし日本の学校は、欧米との交流は受け入れるが、中国との交流は受け入れにくいという傾向があり、実施するのは難しいようである。以前の私のように、中国に対する偏見を持っている人がたくさんいるからではないかと思う。(吉田)

JICA 事務所主催夕食会



北京ダックなどの中華料理を前に、JICA 事務所のスタッフの方々との交流を深めた。中国での生活や学校・映画など、様々な話を伺うことができた。中国人スタッフの知識の深さには、驚かされた。私には、日本についてこれほど深い知識はないと反省した。(上田)

7月31日(土)

紅丹丹教育文化交流中心



【目的】草の根協力支援(視覚障害者のための現地でのボランティア活動)について知る。

視覚障害者に対する惜しみない人的援助が積極的に行われ、その仕事を楽しみながら誇りを持って取り組む人々の姿が印象的で、中国人の世話好きさを思った。周りの街並みもいかにも北京的で素敵な立地だと思った。(吉井)

北京市内視察



【目的】市内視察により、日本と中国との共通点や違い、文化を知る。

中国といえばこれ!というくらい有名な「天安門広場」。予想以上に大きくて、広い。観光名所になっていることもあり、多くの観光客でにぎわっていた。広場には多くの分別回収のためのゴミ箱が設置されており、環境への配慮が感じられた。空き缶やペットボトルなどの資源ごみを回収する人たちの姿も見られた。JICA 中国事務所ナショナルスタッフによると、おそらく経済的に苦しい人たちが、生活の糧にしているのではないかと話していた。(吉田)

8月1日(日)

フフホト市内視察



【目的】首都との違い、その地域の文化・産業・歴史について知る。

内蒙古博物館の恐竜・マンモスの化石や宇宙船の展示に感動した。また、馬頭琴を見てとてもうれしかった。ただ、五塔寺に日本人の仕業と思われる落書きを発見したときには、穴があつたら入りたいような気持ちになった。また、フフホトの町並みには、障害者の姿が幾度となく見られ、それでも、互いに助け合う姿に心を打たれた。(永峰)

8月2日(月)

内モンゴル師範大学



【目的】青年海外協力隊の活動現場を視察し、中国の教育・就職事情を知る。

日本から遠く離れた地で、真摯な気持ちで学生に接している隊員の姿に、心を打たれた。学生たちにもっと日本語を...と願う隊員の努力は、私自身見習わなければならないと思った。朝早くから夜遅くまで学習している学生の様子を聞くと、日本には必死で学ぶ学生がどれだけいるだろうかと残念に思う。(上田)

オルドス市杭錦旗中学



【目的】青年海外協力隊の活動現場を視察し、中学生との交流を通して互いに理解を深める。

男子生徒が多く、反応や行動は日本の男子生徒と大きく変わらない。朝6:30から夜11:00まで勉強しており、とても熱心だ。中国では多くの子供たちが寮生活を送っており、それが普通であるという。中国人にとっても内モンゴルの男の子は特に元気なようだ。(澤武)

8月3日(火)

節水灌漑モデル事業プロジェクト



【目的】技術協力プロジェクトの現状及びそれに携わる人々を知り、理解を深める。

現地の人は自分の生活スタイルまで変えながらこのプロジェクトに取り組んでいることに敬意を感じた。また、その生活の中にはいっていつて支援する仕事も大変難しいものようだ。(投石)

8月4日(水)

植林植草事業



【目的】円借款の現状およびそれに携わる人々を知り、理解を深める。

牧民や農民であった人が、JICAの円借款事業を進めているうちに、環境について考えるようになり、自らを林民と名乗り、誰かにこの事業を受け継いでほしいわけでもなく、自分の命が続く限り植林をしていくという話を聞き、彼の精神の崇高さを感じるとともに、事業自体が人の心も育てたのだなあと感じた。(永峰)

8月5日(木)

リハビリテーション
人材養成プロジェクト



【目的】技術協力プロジェクトの現状およびそれに携わる人々を知り、理解を深める。

1998年に開設されたセンターが今でも大切にされ、日中間で積極的な人材交流が行われている様子を拝見し、ODAは箱物だけではなく、実情に合わせて事業を展開しているということを改めて確認できた。急速に進行する中国社会の高齢化に対応するには、福祉行政そのものへのアドバイスも必要ではないかと感じた。(阿部)

北京市内視察
(教材・資料購入)



【目的】海外研修での「気づき」を教材化するための教材・資料購入する。

英語の参考書や教科書を購入した。数多くの参考書が売られており、明らかに英語のレベルは日本のよりも高い。中国の教育への熱心さがよくわかった。(澤武)

8月6日(金)

バンドー化学株式会社



【目的】日本企業の取組みや日本とのつながりについて知る。

国際貢献のかたちは、無償資金協力や有償資金協力、ボランティアといったものばかりではない。健全な経営姿勢と確かな技術を持つ企業の現地における取組みもまた、その国に対して大きな貢献をしていると言える。(阿部)

開発区視察



【目的】中国の経済成長の現状を知る。

将来の開発区ジオラマを見た。壮大なスケールで本当に完成するのかという疑問と、今の中国の経済状況では本当に完成するのではという期待があった。すでに多くの外国籍の企業などもあり、ものすごい勢いで開発されている。(奥内)

天津市内視察



【目的】市内視察により、中国の人々の生活を知る。

天津は京都のような景観維持政策をとっているが、洋風建築の景観を維持しようとしている。かつて他国の権力が入り込んだ土地で、他国風の景観を維持することに対して抵抗はないのだろうか。(投石)

8月7日(土)

研修振り返り



【目的】海外研修での気づきや感じたことを振り返る。

隣国でありながら、あまり中国のことを理解できていなかったように感じた。日本のものであると思っていたものが、実は中国が起源であることを知り、多くの発見があった。メディアはニュースとして関心を引きそうなものを中心に記事にするので、中立ではないと感じた。(奥内)

2-3 事後研修

事後研修 8月9日(月)・10日(火)

「第7回 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」

8月9日(月)	8月10日(火)
<p>13:00-14:30 >> 基調講演</p> <p>「世界の『今』と向き合い、考える学びの場を」 木下理仁 かながわ開発教育センター(K-DEC)事務局長</p> <p>環境破壊と野生動物の危機について知り、考える。開発途上国の児童労働の現実を知り、考える。さまざまな差別の現実を知り、考える。戦争の怖さを悲劇について知り、考える。考えるだけでなく、課題の解決に向けて行動する。そのきっかけとしての「学びの場」をつくるために、求められるものは、何か。参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。</p> 	<p>13:00-14:30 >> 分科会セッションⅡ</p> <p>a. ビー玉で世界を考える (開発) 中学生以上 インド・コルカタのファミリーテーターから教わった、とっても単純、簡単な一体験。そこから、見えてくることは世界につながる。みなさんと一緒に考え、意見を交換しましょう。【藤野 達也】(財)F40協会</p> <p>b. 開発教育の教材づくりの視点~教師海外研修の体験を通して~ (国際協力・平和) 小学生(高学年)以上 自分の体験で、子どもたちに伝えたいと感じたことを、皆さんはどのように教材化していますか?教材にする写真やモノを、どんな視点で選んでいるのでしょうか?私の作った「インドネシアから「豊かさ」を考えるための教材」を基に、教材づくりのヒントを探ります。【山中 信幸】柳学園中学・高等学校</p> <p>c. 映像を使った「心に届く」授業のつくり方(開発教育) 小学生以上 伝わるとは、理解するだけではなく、心で感じることを、そして行動に移すことです。映像は、遠い国の話をまるで自分のことのように感じさせる力があります。5-15-5の法則など、映像を効果的に活用するコツを、実際の体験談から考えます。【西原 昇】青年海外協力隊OB(職種:映像)</p>
<p>14:30-15:00 >> 主催団体紹介&休憩</p>	<p>14:30-15:00 >> 主催団体紹介&休憩 ※各団体が発行する教材を配布します。</p>
<p>15:00-16:30 >> 分科会セッションⅠ</p> <p>五感や全身を使って平和の意味を考え実現するための参加型ワークショップ。平和の意味を想像してから、それを表すモバイルを小グループで創ります。最終的には、各グループの作品を合わせて、みんなの平和への思いを象徴する巨大なモバイルに。 【ロニー・アレキサンダー】神戸大学大学院国際協力研究科</p> <p>県内の子ども多文化共生教育の現状と課題を理解するとともに、どうすれば全ての児童生徒に「豊かに共生する心」を育てることができるのか、共に考えます。 【山田 耕治】子ども多文化共生センター</p> <p>JICA兵庫は、世界各国で活躍した青年海外協力隊OB/OGが講師となり、現地での活動や任国の事情など、学校の要望に応じた講義を出前しています。特に要望の多い「環境」をテーマに、JICA国際協力出前講座を体験してください。 【魚谷 未夏】JICA大阪 国際協力推進員</p>	<p>15:00-16:30 >> 分科会セッションⅢ</p> <p>a. 難民問題の基礎知識(平和) 小学校高学年以上 兵庫県は全国で2番目に多くの難民が住む県です。難民とはどんな人のことか、なぜ難民になってしまうのか、やっとなどり着いた難民キャンプではどのような暮らしになるのか、の3つのワークショップから考えます。 【中尾 秀一】難民事業本部</p> <p>b. 地球の食卓~食の多様性(世界・国内)編~ (多様性) 小学生以上 DEARは、「食」を中心に生活・文化・環境など多彩なテーマで小学生から大人までを対象とする写真教材を出版しました。今回は、世界と国内の多様性から自分の暮らしにつなげるワークを体験します。 【佐藤 友紀】(特活)開発教育協会(DEAR)</p> <p>c. コミュニケーション能力を高め、人間関係を築く (道徳・多文化共生) 小学校4年生以上 在日外国籍生徒・海外子女・帰国子女教育の実践の経験から、すべての学習の基礎となる国語力(日本語力)を高める楽しい学習方法の実践報告と、学級経営や学年経営にも効果を発揮するよりよい人間関係を築く授業を展開します。 【杉浦 浩】神戸大学附属住吉小学校</p>
<p>★各分科会のタイトル横に、ワークショップに関するキーワードと対象学年を記載しています。(各講師名は、敬称略)</p>	<p>16:45-17:00 >> クロージング・セッション 2日間のセミナーを振り返り、明日からの実践にどう活かすのかを考えます。</p>

教師海外研修参加者全員がこのセミナーに参加した。JICA兵庫が毎年実施しているセミナーであり、豊富なプログラムと講師陣から興味・関心のあるものを選んで参加することができる。教室ですぐに使える開発教育教材(参加型ワークショップ)の手法を学ぶことで、海外研修での経験を授業実践により一層活かす機会を提供するのが目的である。